

エリアウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2731
FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由どうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email: aruga-asvk@pref.yamanashi.lg.jp

「環境が人をつくり、人が環境を変える」 その2

峡東教育事務所 副所長 佐藤 政幹

6月の95号では「環境が人をつくる」話しを書いた。今回は「人が環境を変える」ことについてである。

「人が環境を壊す」といっても良い。この場合の環境は自然環境を意味している。

私は長年、昆虫、中でもカミキリムシの生態を研究している。カミキリムシは非常に種類が多く、日本に約800種が生息している。チョウの約240種に比べると非常に種類が多いことが分かる。カミキリムシは種類によって幼虫時代に食べる植物(多くは木の材部や根などで、生木もあれば枯死材もある)の種類が異なる。例えば、ヤマブドウの材を幼虫が食べるハセガワトラカミキリはヤマブドウが生育する標高1200m以上でないといないし、オトメクビアカハナカミキリは成虫がハイマツの花粉を食べるので標高2500m位でないといない。スネケブカヒロコバナカミキリは幼虫がネムノキを食べ、カエデノヘリグロハナカミキリは幼虫がセンノキを食べる。オニホソコバナカミキリはクワの古木にしかつかないの、山梨では最近絶滅したといわれている。タキグチモモトホソカミキリはカゴノキを食べるので暖地性で西日本に多い。従って、雑木の種類の多い野山にはそれだけ多くの草木があるので、種類も数も多くの昆虫が棲息できる。また、昆虫は成虫の発生時期が異なるので、4月に出現するものから9月に出現するもの、成虫で越冬するものから成虫の時期がほんの一週間程度のものまで多種多様である。

植物の種類が豊富で昆虫も多く棲息している環境であると、当然のことながら、それを食物としている鳥の数や種類も多くなる。鳥が増えると、糞と一緒に消化されない多くの植物の種子がばらまかれることになるので、植物を増やすことにもなる。このような

状態は多様な種が存在するととも自然な生態系である。

近年、アカマツが枯れるのはアカマツの材にマツノザイセンチュウという1mm程度の線虫(ミミズのような形状で北米が原産)が入ることにより枯死してしまうことがわかった。マツノザイセンチュウはマツノマダラカミキリの身体について伝播するので、媒体となっているマツノマダラカミキリを空中からの薬剤散布で死滅させればよいという方法を行なった時期があった。これは広範囲にわたるのでヘリコプターや薬剤にかかる費用が莫大であったと思われるが、効果がなかったばかりか、他の多くの昆虫を殺戮することとなり、食物連鎖の中にある鳥も減らす結果となってしまったようである。マツノマダラカミキリはそれほど数の多い種ではなく(私は何万という標本を所持しているが、マツノマダラの野外採集標本は数頭しかない)、この虫以外の多くの昆虫がこの空中散布でどれだけ殺されたかは考えるだけでぞっとする。

同様に背筋が寒くなるのは、自然を大切にしようという名の下に行なっている植林である。植林するのはとても良いことなのだが、山を見ても分かるように植林したところはほとんどが単一林となっている。スギ、ヒノキ、ちょっと標高が高いところはカラマツ一色である。先にも述べたが草木の種類で昆虫の種類や数は大きく左右される。単一林は昆虫相がきわめて貧弱となり、常時多くの種類の多くの個体が出現しない。従って鳥も少なくなり、多種の雑木が発生生育することが難しい状況となってしまう。

これが環境を考えて人がしたことである。百年生きてきた木も一瞬でなくなる。「人が環境をつくる」とは到底言い難い。せめて保全だけでも真剣に考え、行動していかななくてはならない。

「やまなし少年海洋道中」

フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」が、8月1日から8月9日の8泊9日間、八丈島で開催されました。

峡東地区より7名（男子4名、女子3名）が参加し、貴重な体験をしました。8月1日、県庁を出発し船内で1泊、翌日八丈島に到着しました。



早速テント設営、夕食の準備等を行ない、キャンプが始まりました。クルージングやスノーケリング、サバイバル（班別全島踏破）自主企画（それぞれが企画した体験）、などを体験しました。

8月21日はハヶ岳少年自然の家での交流会が開催され、普段体験できないような活動や県外の生徒との交流の成果が報告されました。

放課後子どもプラン指導者研修会

放課後子どもプラン推進事業とは、県教育庁社会教育課による「放課後子ども教室」と県福祉保健部による「放課後児童クラブ」を連携し、推進していく事業です。

子どもたちの安心・安全な活動拠点（居場所）づくりによって、体験・交流活動の場を提供し、地域の教育力を高める場です。

放課後子どもプラン指導者（員）研修を年間5回開催し、情報交換・情報共有、資質の向上等を推進する目的で行なっています。



第1回目は、静岡県の「きのいい羊達」 須田さんを講師に招いて、子どもたちが熱中するようなゲームや手作りおもちゃの体験研修を行ないました。

第2回目は、山梨大学 教授 鳥海 順子氏を招いて、「多様な子どもたちの基礎的理解と事例検討」の研修会を行ない、皆、真剣に受講していました。

「早寝早起き朝ごはん」

「早寝早起き朝ごはん」の取り組み

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和の取れた食事、十分な休養・睡眠が大切ですが、最近の子どもたちは、「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠な基本的な生活習慣が大きく乱れており、これが子どもの学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。

子どもがこれらの生活習慣を身につけていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところではありますが、家庭における食事や睡眠などの乱れを個々の家庭の問題として片づけるのではなく、社会全体の問題として扱い、子どもの基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるとともに、地域全体で家庭の教育力を支える社会的機運の醸成を図る必要があります。

《参考》文部科学省 「子どもの生活習慣づくり」

「読書」は人生を豊かにする

～生きる力を「朝の読書」で養う～ 朝の読書推進協議会理事長 大塚笑子



勤めていた高校で「朝の読書」を始めてから25年が経とうとしています。一つのクラスから始まった運動は全国で約27、500校の学校で行われるようになりました。ただ、広がれば広がるほど「朝の読書」を義務と捉えたり、読む冊数を目標にしてしまうなど、本来のあり方とは違った取り組みが見られるようになりました。四半世紀経った今こそ、原点に立ち戻るべきではないでしょうか。

「朝の読書」は、授業が始まる前の10分間、生徒と教師の全員が自分の読みたい本を自由に読むだけです。

1 みんなでやる 2 毎日やる 3 好きな本でいい 4 ただ読むだけ

この四原則が基本となります。

シーンとした静寂の中で自分と向き合う時間を持つことで穏やかな気持ちになります。「集中力がついた。」「騒がしかったクラスが落ち着いた。」「学級崩壊を立て直すことができた。」など、効果は目に見えて現われます。



教師の役割は、一緒に読みながら生徒の様子に気を配り、ときには読んでいる本をきっかけに会話するなど、生徒とコミュニケーションを取ることにあります。それによってクラスがまとまり、教師と生徒との信頼関係が深ま

っていきます。なぜなら「朝の読書」が生徒にとって学校を心地良い居場所にしていくからです。たとえば定時制の学校だったら夕方授業が始まる前、職場なら就業前・・・いつでも物事の始まりの時に読書をして心を落ち着ければ、1日が楽しく、そして日々の生活が豊かになるのではないのでしょうか。

私のクラスでは、家庭に問題がある生徒が、悪態をついたり暴言をはき、私を困らせていたことがありました。しかし、その生徒は「朝の読書」で自分と向き合うことでみるみる変わっていき、一年後に、「何かあったときは、読書をすることが一番良いとわかりました。」と言うまでに成長していました。朝、十分の読書が心のよりどころになる。つまり、心を育み「生きる力」を養うことにつながるのです。それは、どれだけ大きな力になるかわかりません。

日本人の識字率が世界一といわれており、素晴らしいことだと思えます。しかし一方で、読書離れが騒がれています。心のうっ積が多いためか、不登校やいじめも多く、生きていくことがたいへんな時代です。そのうっ積は、本を読み、心を穏やかにすることで乗り越えていくことができるのではないのでしょうか。人間の形成にも読書の果たす役割は大きいと思えます。学校は自分の能力の可能性に挑戦し、さらに人と人の関係を築き、社会で生きる力を育てていく場だと思っています。「朝の読書」で心を穏やかにして、授業を最高なものにする。学力をきちんと身につけて、何事も自分で判断できる大人に成長して欲しいのです。

読書は人生を豊かなものにしてくれます。たとえばお子さん、もしくはお孫さんがいる方であれば、どんな本を読んでいるか聞いてみてはいかがでしょうか。本は心の支えになり拠りどころになる、幸せな人生に導いてくれるものだと信じています。



心をはぐくむ「あいうえお」 しなやかな心の育成プロジェクト

あ ありがとう ごめんなさい 素直な心育てます
い 一緒に読書 家族の会話もはずみます
う うちの子も よその子も同じ気持ちで叱ります
え 笑顔で声かけ 元気にあいさつ 地域で広がる思いやり
お 教えます いけないことは いけないこと



地域交流施設訪問

「NPOふえふき学びの広場」で活動している、笛吹市内5校の児童が、10月5日（土）地域交流施設「寿の家」で高齢者約50名と交流しました。篠笛で「花かげ」「笛吹権三郎」等の曲が紹介されましたが、その音色に耳を傾け、演奏が始



まると自然に口ずさむ人もいました。

境川、富士見、石和西各小学校の児童が制作した紙芝居により、地域で伝承されている民話が披露されました。

最後に皆で「ふるさと」を熱唱し、秋の一日を楽しみました。



企画展 山梨の名宝 開催中

10月19日（土）から12月2日（月）の間、山梨県立博物館では、富士の国やまなし国文祭記念行事としての企画展「山梨の名宝」が開催されています。重要文化財である大善寺「薬師如来座像」（10／30～12／2展示）など、峡東地域ゆかりの文化財も数多く展示されています。期間中、記念講演会、かいじあむ子ども工房、ギャラリートークなども行われます。この機会に、地元の「名宝」に触れてみませんか。

詳細は山梨県立博物館、TEL055-261-2631までお問い合わせください。

「あつまれ！ちびっこハッピーランド」

10月1日（火）、山梨市民総合体育館において、山梨市福祉事務所の子育て支援担当、同市健康増進課、生涯学習課共催による「あつまれ！ちびっこハッピーランド」が、講師として山梨県立大学教授、高野牧子氏を迎え、開催されました。未就園児を持つ55組の親子が集まり、音楽に合わせて指遊びや体操をして、親子のスキンシ



ップを楽しみました。親子で体操をする中で、子どもは無理なく体を鍛え、保護者も子の成長を感じることができます。また、山梨大学医学部看護学科の学生16名も、活動に参加する中で、未就園児との交流を深めました。子どもたちは元気いっぱい手足を伸ばし、広い体育館内には、親子の笑い声が響きました。



人権のための講演会ご案内

主催 峡東地域教育推進連絡協議会

- 1 期 日 平成25年11月28日（木） 13：30～16：00
- 2 場 所 笛吹市一宮町 いちのみや桃の里 ふれあい文化館「多目的ホール」
- 3 演 題 「子どもの笑顔を取りもどそう！」
～いじめ・不登校・ひきこもり解決とネットワーク～
- 4 講 師 山梨英和大学 教授 黒田 浩司 氏

13:30 14:00 14:10 15:50 16:00

受付	開会行事	講 演 ・ 質疑応答	閉会行事
----	------	------------	------